

# 令和5年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 生命の星・地球博物館

評価基準 (達成度)	達成 (目標値 $\geq$ 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 $\geq$ 80%)	△
	未達 (目標値 $<$ 80%)	×

## ○全館共通項目

		取組の内容		自己点検			第三者評価
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向	評価のコメント及び今後の方向性等の提言
利用状況	満利用者	90%	来館者のニーズを把握し、魅力ある施設づくりに務める。	95.5%	○	来館者の意見やニーズを汲み取り、さらに魅力ある施設づくりにつとめる。令和5年は昨年度に引き続き、通常の満足度調査とミュージスタ期間にも記入式および電子申請によるアンケートを実施した。	
	入館者	179,936人	より効果的な広報を実施し、さらなる利用促進をはかる。	219,376人	○	広報の効果測定、新しいツールを利用した広報を実施し、さらに利用促進をはかる。団体予約の制限等はコロナ禍後も継続したため、コロナ以前の数字よりは少ない。	
	教育への参加者	7,171人	魅力ある行事づくりに進める。	5,571人	△	講座の開催時季や参加者の世代構成などを精査し、魅力ある行事づくりに進める。コロナ禍後も講座の定員を減らして実施している。昨年度よりも大幅増	
	トイアンタキセス	504,675件	利用者視点に立った記事やレポートの魅力をさらに増す。	587,732件	○	利用者視点に立った情報の提供、オリジナルで時流に沿った記事をさらに増やすことによって、ウェブサイトの魅力を向上させ、アクセス数のさらなる増加を促す。	
資料・収蔵品	活用	館外貸出(研究)15,940(以外)1,566点	外部研究者との連携をさらに密にすると同時に、資料の蓄積を進め、利活用を活性化させる。	(研究)88,791(以外)1,022点	○ ×	外部研究者との連携をさらに深めると同時に、資料のさらなる蓄積、信頼のおける資料収集と資料に関連する情報の発信につとめ、資料利用をさらに活性化させる。近年はAI学習のためのデータ利用があるため、件数が極端に多くなることもある。	
	維持管理	棄損無し	IPMの考えに基づき、虫害等による資料の破損や劣化を防ぐ。	棄損無し	○	IPMの考えに基づき、虫害等による資料の破損や劣化を防ぐ。また、紫外線や振動による劣化を予防する。	
調査研究	(研究成果の公開等) (発表・印刷物等)	学術著作92 普及著作87 件	外部研究者との連携をさらに密に進展をはかる。外部資金に積極的に取り組み、調査研究の充実をはかる。	学術著作83 普及著作42 件	△ ×	引き続き外部研究者との連携を進め、研究の進展をはかる。外部資金の獲得にさらに積極的に取り組み、調査研究の充実をはかる。	

情報発信	事業情報の発信	656件	利用者視点に立った情報発信を、記事内容の更新と併せて実施する。	575件	△	利用者視点に立った情報の提供、オリジナルで時流に沿った記事をさらに増やすことにより、ウェブサイトの魅力を向上させる。令和3年は新型コロナ関連の更新が多かったため目標値が増えた。令和5年の件数は例年並み。
	事業等収入及び	観覧料 42,342 事業収入 2,365 円	魅力ある企画の開催、来館者増加の取組を積極的に実施する。	観覧料 55,679 事業収入 3,330 円	○ ○	魅力ある特別展、企画展の開催や、幅広い内容の講座や講演会など、来館者増加につながる各種の取り組みを実施する。
	施設運営等	点検を実施する	防火・防災に備えて、来館者の安全を確保し、点検を実施する。	点検を実施した		引き続き、来館者視点での点検を実施し、安全、安心を確保する。
	自己研鑽及び					

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。